

W I N G E S S A Y

DENTAL WING Co.,LTD

—2016年 5月号—

熊本・大分の地震災害に対し、心よりお見舞い申し上げます。

心身のご健康と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

☆4月14日の夜、一日の疲れを癒しに入る時間帯に襲った大きな地震、全く考えてもいなかった出来事に九州地方全部が驚きました。特に震源地の熊本の被害は、刻一刻と甚大な被害を伝え、日常の生活を遮断することになりました。

慣れてないとはいえ、自然の脅威の前に何も出来ない人の無力さを感じさせられます。確かに様々な技術の進歩で日々の生活に恩恵を受けていることには間違いありません。しかし、いつ余震が収まるのか専門家でさえもわからない。どんなに科学の技術が進歩しようと、わからないことが沢山あるのが現状です。

日々の生活の中で、ごく当たり前に出てくるのが、実はとんでもない有難さであることを知らされます。

現地、熊本や大分の被災者の皆様の生活状況を思いますと、本当に心が痛みます。

スイッチ一つで電気もガスも、回すだけで水道が。これが私達の日常です。この3つのうち、一つでも止まりますと、生活に支障を期たすことになります。さらに、住まいも崩壊はしていなくても、家具や生活用品が散乱し余震で安心して片付けが出来ない状態を思いますと、本当に心が休まることさえないのだと思います。

だからと言って、被災者の皆様にすぐお手伝い出来るわけでもありません。もどかしさを感じますが、せめて心だけはいつも傍に寄り添うことは出来るはずです。生活物資の提供もいいでしょ、ボランティアもいいでしょ。一番大切なことは、被災者の皆様のご心情に精神的に寄り添うことだと思います。そこから、お手伝い出来ることがあれば始めましょう。

こんな状況の中、海外の人からは様々なメッセージが入って来ています。ネット上の投稿ですが、日本人としての誇りを強く持っていたいものです。必ず立ち上がり、さらに良くなることを確信しています。被災者の皆様一緒に頑張りましょう。

留学生3年生でインド人のアリ・チャウダリーさん(20)は、市内の下宿先で友人たちと食事している最中、激しい揺れに見舞われた。一時、高台に避難したがアルバイト先の市内のホテルから、外国人客への通訳として呼び出された。そこで宿泊客の安全を守るため、丁寧に対応する従業員や、普段は受け付け業務を行わない幹部社員がフロントに立つ姿を目にした。「自分の命を守りたいと思っているはずなのに、まずお客の命を優先している日本人に感動した」アリのフェイスブックにも、「自分に任された仕事を優先させる。日本人とほかの国との違いがわかった」といった他の留学生たちの声書き込まれていた。アリさんは、第二次大戦で焼け野原となった日本が、復興を成し遂げた理由を調べたいと来日した。今回の経験で、その答えを見つけたと感じている。「日本は逆境に負けない国だ。その理由は、どんな問題があっても、自分より他人を優先する日本人の民族性なんだ」